



車両協力
 ㈱ エアロテックジャパン
 ☎072-838-7744
<http://www.aero-tech.co.jp/>
 インプレ車等は、5人乗りのデモカーである
 新製タント・カスタム、ハーフエア
 ロ+17インチで、カスタムユーザー
 のサンプルとしても最適で、エンジン
 まわりは、最新パーツともノーマル。

ケーリファインはチーム・マイナス6%に参加しています



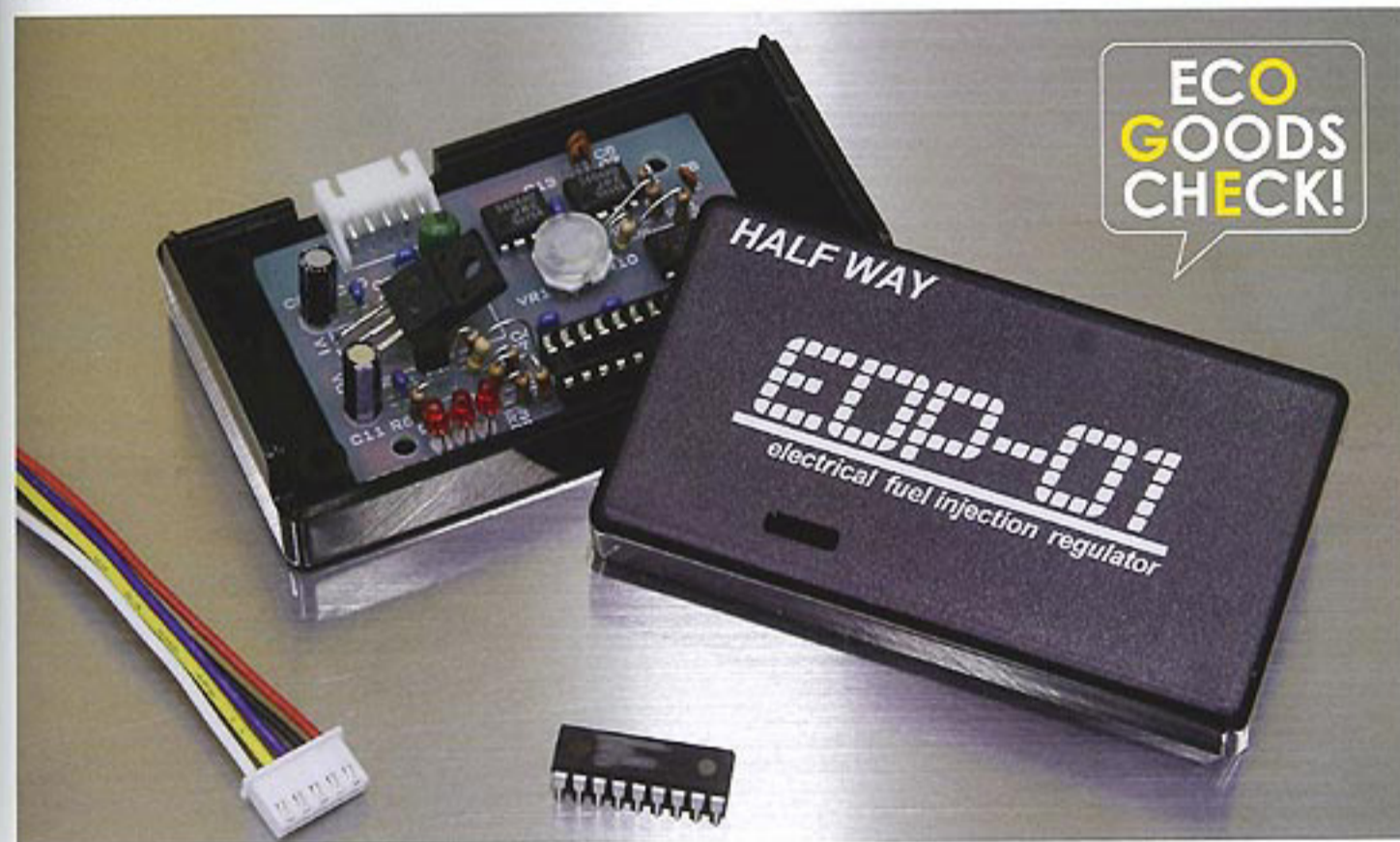
みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

660cc 我ら軽カーオーナー!
みんなで、エコドライバー宣言!!



エコロジーが世界に広がるなか、ケーリファインが地球のためにできること...それは、ひとりでも多くの読者のみなさんに「地球温暖化を止める」意識をもってもらうこと。ひとりひとりの意識の積み重ねこそが、とって大勢! エコへの関心と一緒に、素敵なKカーライフをエンジョイしよう。



ECO GOODS CHECK!

効率的な燃料消費でパワーと燃費をアップ!
サブコン「EDP-01」の実力を探る

HALF WAY EDP-01

- 価格...¥29,400
- 対応車種...エッセ、タントカスタム (KF-DET-CVT車)、L175ムーヴ (KF-VE-4AT車)、i (3B20ターボ)、ほか随時追加

問:ハーフウェイ ☎078-998-2223 <http://www.halfway.co.jp>

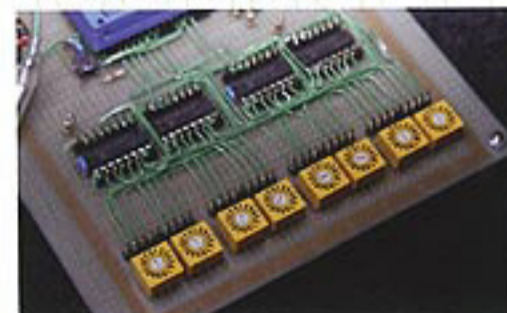
ハーフウェイから、各車種専用セッティング済みのサブコン「EDP-01」が発売された。サブコンとはサブコンピュータの略称で、エンジン制御プログラムそのものを加工するフルコンピュータに対して、制御信号を補正するプラスアルファ的な存在。従来のサブコンは補正できる範囲に限られていたのだが、このEDP-01では任意にて調整できる回転数、増減のゲイン幅、補正を開始する負荷軸が設定でき、点火タイミングとリミッターが変更できない以外はフルコンに迫るスペックを備えている。そんな凄いサブコンだが、単体での調整機能を省いて最初から車種ごとに最適なデータを入力することで、お手軽なブライスを実現しているのだ!



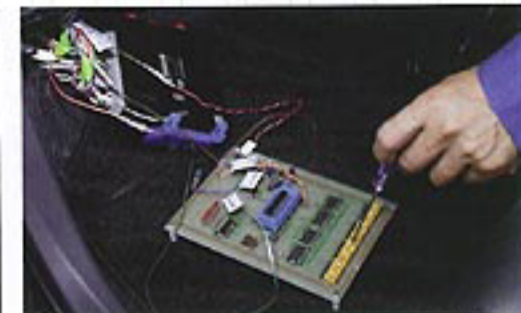
ATの油温やエンジンの水温、CVTの油温など、高負荷を感知するとエンジン本体に燃料を供給して保護モードになってしまう。



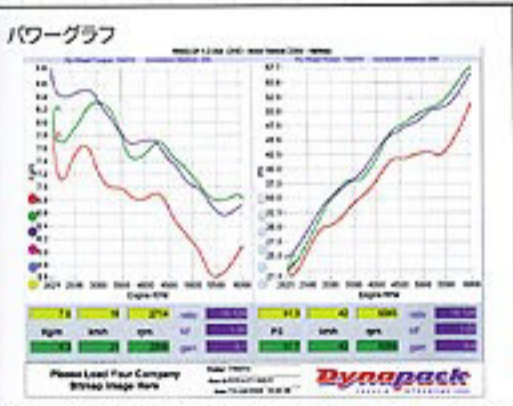
車種ごとのセッティングは、レーシングカーと同じダイナモメーターを使用して徹底追求! 負荷をかけて、実走状態を作りだせる。



セッティング用基板にはダイヤルが並び、細かい調整をICに記憶、調整する回転数、燃料の増減幅は必要に応じて自由に設定可能だ。



CVT車では5回も計算すれば保護モードに移行する(学習機能ではない)ので、CVTの冷却を挟みながら地道にセッティングを進める。



ムダな燃料を削って完全燃焼! パワーの追求がエコドライブもサポート

コンピュータチューニングっていうと、パワーを追求するハードなメニューという印象があるよね? 燃調セッティングをおこなうには専門の機材や設備が必要なので、当然コスト的にも高価なチューニングメニューというのが常識だ。ところが、そんな面倒なセッティング機能を省き、最初から車種ごとに最適なデータをインプットしたサブコンピュータとして、ハーフウェイから「EDP-01」が発売された。

製品本体は地味なプラスチックの箱で、本当に飾り気がない。でも、これが不要なコストをカットした理想型で、「イジらない調整ダイヤルとか飾りの液晶モニターとか付けるより、大切なのは自身のセッティングデータでしょ」と言わんばかり。実際にセッティング風景を見せたらうと、それは本気のレーシングチューンと一

切変わらず、逆にATやCVTの負荷からくるフェューエルセーフ(純正にて設定された保護モードで、通常よりも燃料を濃くしてパワーダウン&冷却を重視する)に対応するのが面倒な状況で、冷却を挟みながら細かい燃調を煮詰めていた。タント・カスタムの場合は、純正データは燃料が濃い目なので、安全な範囲で燃料を絞ってパワーアップさせる内容だった。

そして注目なのは、やはり走りでしょう! 実際に試乗してノーマルと比べてみると、明らかに発進時からパワーが異なり、息切れなくクイックに加速する様子に、思わずパワーアップできるほどだった。燃料を削ってパワーアップできるなんて、これこそ省燃費と完全燃焼を促進するエコチューンだよな!! これがポン付けで味わえるなんて、いい時代になったもんだわ。

面倒なセッティングは必要なし!
ユーザーは手軽に性能アップを実感できます

ハーフウェイ 代表取締役 林 重克さん

Kカーチューニングのスペシャリストとしておなじみ、知識と経験に裏付けされたノウハウは、業界のユーザーから多くの信頼を集めている。



「自動車メーカーが作るクルマは、どこまで強いても同じ性能を保証しないといけません。そのため、エンジン制御には安全マージンが取られており、特に高負荷時や高回転では燃料を濃いようにしてエンジンがブローしないように配慮されています。この安全マージンが結構なモノで、我々の目からすれば明らかに多すぎる! 乗り味をマイルドにするため、わざと燃料を濃くしているのか...とも思うほどです。荷重が看板が大きいほど、気を遣うんでしょうか? そこで、安全マージンを残

しつつ一般的に問題のないレベルで不要な燃料をカットし、より完全燃焼させてパワーを出すセッティングを試してみました。車種によっては燃料を濃くする部分もありますが、パワーが出るぶんアクセル踏む必要がなくなり、結果的に燃費が向上することが考えられます。おそらくエコに貢献できるパーツだと思うのですが...乗り手によってはガンガン走って燃費が悪くなる方もいるでしょうから、あくまでパワーアップを目的にしたサブコンということにしておいてください!